



※学-Viva：「Viva」は、「生きる」という動詞から生まれた言葉です。三重の「学び場」が生き生きするイメージで名付けました。

## ●● 学習内容の確実な理解と定着を図る取組を！ ●●

第2回みえスタディ・チェック（対象：小5、中2）の結果を設問別に前回や過去の状況と比較すると、「できるようになった設問」と「できなかった設問」が明らかになります。設問別に状況をとらえ、「できなかった設問」を年度内に確実にできるよう、学校全体で取り組んでいきましょう。

### 取組の3つのステップ

- みえスタディ・チェックの分析から、「**できなかった設問**」を明らかにする。
- 授業での繰り返し指導、補充学習、家庭学習の場面で、学校・市町独自の教材や県が提供している教材を活用して、「**できるようにする取組**」を組織的・計画的に進める。
- 取組により、「**どこまでできるようになったか**」を確認する。

### ステップ1 ● 「できなかった設問」を明らかにする

第2回みえスタディ・チェックの結果を設問別に見て、「できなかった設問」については、子どもたちがどの学年のどんな学習でつまづいているのかを明らかにしてください。そして、子どもたちのつまづきの状況を学校全体で共有し、各学年の授業改善につなげてください。

### 県全体の傾向

### 第1回みえスタディ・チェックと同一設問の状況

小5	国語：示された述語に対する主語を選択する	前回 53.6%	→	今回 74.8%	改善
	算数：午前10時35分から午後1時15分までの時間を求める	前回 40.4%	→	今回 58.1%	改善
中2	国語：傍線部「入っていた」の主語として、適切なものを選択する	前回 43.9%	→	今回 34.6%	課題

### 経年課題の状況

	教科	問題番号	設問内容	過去の出題	県平均正答率		改善状況
					過去	今回	
小5	国語	4	接続語を使って一文を二文に分けて書く	R2第2回 みえスタ小5	48.4%	42.4%	-6.0 課題
		6一	学校新聞を書くために、「時の記念日」についての【資料】から、小野さんが中心に読むとよい段落を選択する	H29全国調 小国A	83.8%	74.2%	-9.6 課題
		6二	学校新聞を書くために、「時の記念日」についての【資料】から、今村さんが中心に読むとよい段落を選択する	H29全国調 小国A	77.6%	62.8%	-14.8 課題
	算数	2	4は10の何倍かを求める	R2第2回 みえスタ小5	44.2%	46.3%	+2.1 改善
		3	$12 \div 0.8$ の式で求められる問題をすべて選ぶ	R1第2回 みえスタ小5	24.5%	24.8%	+0.3
		5	180度以上の角の大きさを求める	H30第2回 みえスタ小5	44.9%	44.6%	-0.3
中2	国語	8	四角形を3つの三角形に分けたときの、四角形の4つの角の大きさの和を求める式を書く	H28第2回 みえスタ小5	43.1%	37.5%	-5.6 課題
		9	L字型の図形の面積の求め方を表す式を、示された図をもとに選ぶ	H28第2回 みえスタ小5	57.6%	60.5%	+2.9 改善
	数学	5二	複数の辞書を引用して「天地無用」の意味を示す効果として適切なものを選択する	R1第2回 みえスタ中2	62.0%	61.6%	-0.4
		7	対頂角は等しいことの証明について正しい記述を選ぶ	R2第2回 みえスタ中2	28.7%	28.5%	-0.2
		11	読んだ本の冊数と人数の関係をまとめた表から、読んだ本の冊数の最頻値を求める	H28全国調 中数A	49.4%	57.3%	+7.9 改善

## ステップ2 ● 「できるようにする取組」を組織的・計画的に進める

「できなかった設問」については、授業での繰り返し指導、補充学習、家庭学習の場面で、学校・市町独自の教材や県が提供している教材を活用するなどして、一人ひとりの子どもができるようになるよう指導してください。その際、県が提供する CBT システムを活用すれば、一人ひとりの状況に応じた取組を進めることができます。

また、小5、中2以外の学年についても、小5、中2でつまずきが見られた単元につながる学習内容の学び直しを行い、一人ひとりの確かな学力の育成につなげてください。

### CBT システムを活用した一人ひとりの状況に応じた取組

小5、中2については、県が提供する CBT システムを活用し、一人ひとりの学習状況に応じた「関連問題」や「CBT ワークシート」、「今日の1問」などで個別の理解・定着を図る取組を行ってください。



CBT システムにおける児童生徒用メニュー画面

1 2 4 は、児童生徒の学習端末にて回答することができ、解答後、すぐに正解・不正解が確認できます。



### 1 結果票 → 関連問題

みえスタディ・チェック実施後の結果票から、設問ごとに、正解の場合はさらに難しい問題が、不正解の場合は学習内容を遡った問題が提供されます。

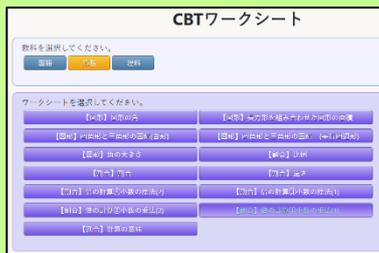


「結果票」から、すぐに、正解・不正解に応じた関連問題に取り組めるよ！



### 2 CBT ワークシート

経年課題である「割合」「図形」「読む力・伝える力」の問題が提供されています。



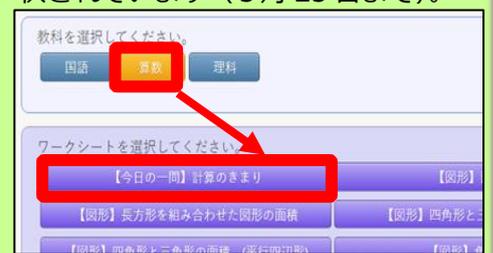
### 3 単元別ワークシート

これまで紙媒体で提供されていた小学校第4学年から中学校第3学年までの国語、算数・数学、理科のワークシート（PDF ファイル）が単元ごとに整理し、提供されています。



### 4 今日の1問

国語、算数・数学では、基礎的な内容の定着に課題があります。確実な定着にむけて、小学校第5学年及び中学校第2学年の児童生徒の学習端末に、基礎的な問題が毎日1問ずつ提供されています（3月25日まで）。



## ステップ3 ● 「どこまでできるようになったか」を確認する

- ★ 「できるようになったか」をワークシート等で確認します。
- ★ 「できるようになる」まで授業や補充学習・家庭学習で繰り返し指導をお願いします。

### 学-Viva!! (まなびば) セット 第2弾の活用

小5・中2の児童生徒を対象として、国語、算数・数学、理科の学習内容において、特につまずきが見られる基本問題で構成したワークシート集を学習端末（2月下旬）に提供しました。1シート5分程度で学習できるように構成しています。朝の短時間学習や授業、放課後の補習、家庭学習等で繰り返しご活用ください。

「みえの学力向上県民運動」の「先生のページ」にも掲載しています。ダウンロードしたワークシートは編集することもできますので、児童生徒の状況に応じてご活用ください。

# 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善 令和3年度授業実践研修の取組から

今年度の授業実践研修は、1,120人の受講者（初任者研修は354人、6年次研修は413人、中堅教諭等資質向上研修Iは353人）が、校種別・教科別の班（教科によっては、異校種合同研修班）120班に分かれて、集合での研修やWeb会議システム（Zoom）を活用した遠隔研修を全4回受講しました。今年度は、「1人1台端末等のICTを効果的に活用した授業づくり」についても研修内容として協議しました。

## ■ 授業実践研修の目標 ■

- ・「主体的・対話的で深い学び」の視点から、授業づくりの基礎について学び、授業改善に対する意欲を高める。
- ・子どもの学力向上をめざし、自らの授業改善と課題解決に向けて、主体的に研修に取り組む力をつけ、学校での自主的な研修への意欲につなげる。
- ・経験の異なる教員が研修班に分かれ、授業研究を通して、継続的な相互研鑽による授業改善を図るとともに、授業力の向上をめざす。

## ◆ 研修方法 ◆

- ・約10名で研修班を構成し、相互研鑽による授業研究を実施する。
- ・県教育委員会事務局研修担当の研修主事1名がチューターとしてつき、班の運営、研修の助言をする。
- ・年間4回実施し、班別の年間計画、研修班テーマに基づき、研修を行う。
- ・研修班テーマをもとに、課題と改善策を明確にし、授業改善へつなげる。

## ◎◎ 授業改善のポイント ◎◎

「わかった！できた！」という子どもたちの笑顔につなげるために！

- 見通しを持って学習に取り組めるよう、めあてを提示し、振り返りを行っているか。
- 他者の考えを聞き、自己の考えを広げ深める場面を設定しているか。（多様な表現手段や対話場面の設定）
- 各教科等に応じた「見方・考え方」を働かせながら、より深く理解したり、問題を解決したりする、習得・活用・探究という学びの過程を取り入れているか。



## ● 授業実践研修 1、2 ●

授業実践研修1、2では、学習指導要領において期待される学びや1人1台端末を活用した授業づくりについての講義を動画で視聴した後、授業改善についての各自の課題を交流し、研修班別協議を行いました。協議では、研修班の研修テーマ「①子どもにつけたい力②重点的な取組③次回までに取り組むこと」を設定しました。

研修テーマをもとにして、授業実践研修3、4での受講者各自の授業公開・実践報告へとつなげます。

例 中学校体育班

- ①調整力の向上
- ②なかまと関わる場面の設定、ICT活用、技能・体力の向上に向けた課題設定
- ③各自の変容が観察できる、感じた事を伝え合うことができるツールとしてタブレットを活用する（動作分析、ワークシートのデータ化等）

班のメンバーと子どもの実態や授業実践や課題などを話し合うことで、自身の授業づくりの課題を改めて考えることができたので2学期からの授業に取り入れて活用したいです。



## 授業実践研修 1、2を受けて

## ● 授業実践研修 3、4 ●

授業実践研修3、4では、研修テーマを踏まえた実践について、中堅・6年は授業公開またはビデオ授業公開を、初任者はレポートをもとにした実践報告を行い、それぞれの実践について授業改善に向けた協議をしました。

最後に班で「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善について協議するとともに、「今後取り組むこと」を決め、各自の今後の実践へとつなげます。

遠隔研修での協議の様子



<受講者の声>

（初任）中堅研の先生から「初任者の先生の実践報告からも気づきがある」と言ってもらい、経験があっても日々勉強していくことが求められていると再確認しました。



（6年）特別支援学級の担任として経験が浅く、支援の方法や授業の仕方に不安がありました。中学校、特別支援学校の先生の話聞くことができ、勉強になりました。

（6年）今回学んだことは“課題設定の重要性”と“振り返りで学習内容を定着させる時間の重要性”の2つです。本時の学びを振り返ることで、次時につなげ、前時との連続性を高め、生徒自身の学びをさらに深めていくことができると感じました。



（中堅）ちがう市町の先生方と授業を通して意見を交流できることは非常に刺激をもらえます。また、今回の協議で、子どもの意見をどう繋げていくか、そのためにどうICTを活用していくと効果的なのかといった研修班としての方向性が見えたことが成果だと感じています。

## 【事例 46】 川越町立川越南小学校

川越南小学校では、「読むことと書くことは関わり合っている」という考えから、「読んで理解する力」(=読解力)を高めるために「書く力」を付けることを重点目標にして、国語科を窓口とした研修を進めています。

### 1. 児童の実態と学習指導要領をもとにした研究主題の設定

#### ■児童の実態から

全国学力・学習状況調査の結果等から「問題文を読み取る」「文章で説明する」といった力が不十分という課題が明らかになった。

#### ■学習指導要領から

「情報の扱い方に関する事項」が新しく設定されたこと等から、従来の国語科教育を新しい側面も入れて見直し、アップデートする必要がある。

### 研修主題「読解力の育成」～どう授業を組み立てるのか～

- ・「目的に応じて必要な言葉や文を見つけて要約する力」「根拠に基づいて自分の考えをまとめる力」を身に付けさせ、伸ばしていくために、「説明すること」「書くこと」を意識した授業に取り組む。
- ・子どもたちの実態をもとに、系統的な取組を進める。

学習指導要領をもとに、「つきたい力」についての共通理解を図ることで、各教員の指導方針を統一することができます。

### 2. 校内研修会の充実

夏季研修会では、具体的な授業場面を取り上げ、学習指導要領の指導事項やそのポイントを確認したのち、2学期に取り扱う教材について低・中・高各学年部の教員で考える「教材研究ワークショップ」を行いました。

学年部で検討した結果を全体で共有することで、教科の系統性について考えることができました。話を聞くだけでなく、実際の授業をもとに参加型の研修にすることで、より具体的な授業づくりの方法を学び合うことができました。



「教材研究ワークショップ」の様子



#### <教員の感想より>

1つの単元についてたくさんの先生方と意見を交換することができ、とても勉強になりました。特に学習指導要領をもとに、つきたい力を明らかにすることで、ねらいをもった授業づくりができると感じました。

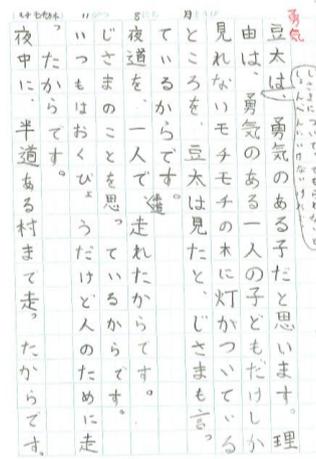
### 3. 具体的な実践例 <第3学年「モチモチの木」>

#### ■この単元で取り上げる指導事項

登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像すること。(第3学年及び第4学年の内容 C読むこと 工)

#### ■実際の授業における子どもの姿

- ・子どもたちは、根拠になる語句や文をもとに理由を示しながら、自分の考えを書いていきました。
- ・交流の場面では、友だちの意見を聞いて考えを変え、再び思考する子どもの姿もありました。
- ・友だち同士の話し合いを聞くことで、自分の考えをより詳しく書き表す子どもも見られました。



子どものノートより

国語科における  
授業づくりの  
ポイント

Step1 単元で取り上げる指導事項の確認

Step2 指導事項の内容を身に付けさせる言語活動の設定

Step3 指導事項に基づいた評価規準の決定と単元の評価の計画の決定

#### ●●●●●●●●川越町立川越南小学校長からのコメント●●●●●●●●

私が川越南小学校に教諭として赴任した7年前には、「落ち着いて授業ができないクラス」があり、学力も全国平均に比べて低い状況が続いていました。それから全教職員が課題を共通理解して、一丸となって子どもたちへの指導を行う等、組織的な取組を進めてきた結果、全校が「落ち着いて授業ができるクラス」となり、学力も確実に向上してきています。本年度は「読んで理解する力」(=読解力)を高めるために「書く力」を付けることを重点目標にして全学年で取組を進め、低学年からの積み上げの成果も出てきています。